

- 問1 日本企業が東南アジアへ進出する背景を説明する際、日本と東南アジア諸国との間にある「経済的な差」に着目する必要があります。1人当たり国内総生産（GDP）が日本よりも低い国々へ進出することでもたらされる、企業の利点として正しいものはどれですか。（2019年 大分県公立入試 類似）
1. 現地の労働者の教育水準が日本より高いため、教育コストをゼロにできること
 2. 経済水準が低いために土地代が無料で提供され、工場建設費用が不要になること
 3. 賃金水準が日本より低いため、労働者を安い賃金で雇い、安価に製品を作れること
 4. 1人当たりGDPが低い国では関税が完全に免除されるという国際的な決まりがあること
- 問2 日本国内の統計データにおいて、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、大阪府、京都府、奈良県、福岡県、沖縄県といった、大都市圏とその周辺、および観光地の都府県が上位を占める項目があります。この統計が示す内容の背景として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 千葉県公立入試 類似）
1. 原料の輸入に便利な臨海部に広大な工業地域が形成され、第2次産業の割合が高いため
 2. 自然環境を保護する政策により、林業や水産業が他県よりも優先的に行われているため
 3. 広大な土地を利用した大規模な機械化農業が発達し、第1次産業が活発であるため
 4. 人口や企業の事務所が集中し、商業、金融、サービス業などの需要が非常に大きいため
- 問3 日本の食料自給率を向上させるための取り組みとして、「地産地消」が推奨されています。この「地産地消」の内容として最も適切な説明はどれですか。（2023年 大阪府公立入試 類似）
1. 地域で生産された農産物を、その地域の中で消費すること
 2. 海外から輸入した種子を、日本の各地に分散してまくこと
 3. 都市部の工場で生産された加工食品を、農村部へ届けること
 4. 全国の農産物を一度東京に集め、均等に地方へ配分すること
- 問4 近年、日本の多くの自治体で「地産地消」が推進されています。この取り組みが地域の農業や社会に与える影響についての説明として、最も適切なものはどれか。（2021年 岐阜県公立入試 類似）
1. 生産者の顔が見える安心感を提供し、地域の農家と消費者の結びつきを強めることで、地域の農業を活性化させる。
 2. 大規模な機械化を進めて生産効率を高め、生産者が特定の作物を全国の市場へ安価に大量供給する仕組みを作る。
 3. 消費者がインターネットを通じて全国の生産者から直接商品を購入し、中間業者を排除して価格の安さを追求する。
 4. 消費者が海外の農産物との価格差を把握し、最も安価な生産地から食料を調達できるよう、国際的な流通を支援する。
- 問5 日本のエネルギー供給における、2000年から2020年にかけての大きな変化とその背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 福島県公立入試 類似）
1. 少子高齢化による電力消費量の劇的な減少により、2020年には新たなエネルギー源の開発が必要となり、1970年代と全く同じ供給構成に戻った。
 2. 大規模な震災の影響で安全性が再検討された結果、原子力の割合が減少し、代わりに温室効果ガスの排出が比較的に少ない天然ガスや再生可能エネルギーの割合が増加した。
 3. 北極海航路の開拓によって原油の輸入コストが劇的に下がったため、一度減少していた石油の割合が、1970年代の約70%を上回る水準まで再び上昇した。
 4. 地球温暖化対策として「脱炭素」を推進するため、輸入に頼る天然ガスの利用を一切禁止し、国内で自給可能な石炭による火力発電へ一本化した。
- 問6 日本を代表する港の一つである名古屋港の統計において、輸入品の主な項目が液化天然ガス・鉄鉱石・原油・石炭であり、一方で輸出品の主な項目が完成自動車・自動車部品・産業機械である場合、この貿易の状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2018年 福島県公立入試 類似）
1. 原材料を輸出し、高度な工業製品を輸入する加工貿易の典型的な姿である。
 2. 同じ種類の工業製品を互いに輸出し合う水平分業の典型的な姿である。
 3. 食料品を輸入し、原材料を輸出する食料安全保障に基づいた貿易である。
 4. 原材料を輸入し、高度な工業製品を輸出する加工貿易の典型的な姿である。
- 問7 1970年代以降、日本の工業は従来の臨海部から内陸部へと広がりを見せました。このような工業の分散と内陸化が進んだ背景と、その特徴について説明した文として最も適切なものはどれですか。（2016年 滋賀県公立入試 類似）
1. 鉄道網の整備により大量の原材料を安く運べるようになったため、製鉄所や石油化学コンビナートが山間部の工業用地に次々と建設された。
 2. 高速道路などの交通網が整備されたことにより、部品の輸送が容易な機械工業を中心として、内陸部での工業団地の開発が進んだ。
 3. 石油ショックをきっかけにエネルギー資源の輸入が途絶えたため、原料を必要としない伝統的な工芸品を製造する工場が内陸部に分散した。
 4. 地価の高騰により都市部での操業が困難になったため、広大な土地を必要とする造船所や製紙工場が、水資源の豊富な内陸部に移転した。
- 問8 1930年代の日本の人口構成は、底辺が広く子供の割合が高い一方で、年齢が上がるにつれて急激に人口が減少する三角形に近い形をしていました。これに対し、2000年代後半には、子供の割合が低下して底辺が狭くなり、中高年層の割合が厚い、中央が膨らんだ形へと変化しました。このような人口ピラミッドの形状の推移を正しく表現したものはどれですか。（2016年 愛媛県公立入試 類似）
1. つぼ型から富士山型への変化
 2. 富士山型からつぼ型への変化
 3. 釣鐘型から富士山型への変化
 4. 富士山型から釣鐘型への変化
- 問9 水産資源を効率的に管理するための手法である「栽培漁業」と「養殖業」の違いについて説明した記述として、適切なものはどれですか。（2022年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 栽培漁業は特定の魚種のみを対象とするが、養殖業は貝類や海藻類を含むすべての水産物を対象とする。
 2. 栽培漁業は出荷まで生け簀などの施設で管理し続けるが、養殖業は稚魚を放流して自然の中で成長させる。
 3. 栽培漁業は稚魚を放流して自然の中で成長させるが、養殖業は出荷まで生け簀などの施設で管理し続ける。
 4. 栽培漁業は海外から輸入した稚魚を育てるが、養殖業は日本固有の卵から孵化させた稚魚のみを育てる。
- 問10 宮崎県などの温暖な地域で、冬から春にかけてピーマンなどの野菜を多く出荷する「促成栽培」が行われる理由として、最も適切なものを選択しなさい。（2019年 北海道公立入試 類似）
1. 広大な土地を利用して一度に大量の生産を行い、1年中安価に提供するため
 2. 標高の高い地域の冷涼な気候を利用して、他の産地が品薄になる夏に出荷するため。
 3. 他の産地の生産が少なくなる端境期に出荷し、市場で高値で販売するため。
 4. 大消費地のすぐ近くで栽培することで、輸送費を抑えて新鮮なうちに届けるため。
- 問11 国産レモンの市場流通において、国内の取扱数量が年間で最低水準となる一方で、取引価格が1kgあたり約960円という年間最高値に達する6月から8月ごろを狙って、生産者が貯蔵しておいたレモンを出荷する理由として最も適切なものはどれですか。（2020年 長野県公立入試 類似）
1. 市場の供給量が減る時期に合わせて高値で出荷し、収益を上げるため
 2. 豊作で市場にレモンが溢れる時期に、安値で大量に販売して利益を得るため
 3. 夏場は品質の劣化が早いので、貯蔵せず収穫後すぐに出荷して損失を防ぐため
 4. 海外産の輸入量が増える時期に対抗し、あえて価格を大幅に下げてシェアを拡大するため